

みんな考えてまい!

# 蒲郡のまちづくり

～都市計画マスタープラン～



「都市マス」の案も固まってきたんだってね。

今年の6月と8月に都市マスの策定委員会が行われたんじゃが、他の市と比べて早く高齢化が進んどるし、子どもも減つとる中、目標年度の人口を何人にするかで意見が分かれたんじゃ。そいで、

空いとる土地を有効に使って、人口が8万人の蒲郡のまちをつくっていかうと決まったんじゃ。

人口と土地の使い方が関係あるの? ほうなんじゃ。市街化区域を増やしたりする基準となるのが、人口だで、人

口が減りや市街化区域を減らすことになるんじゃが、そこが難しいとこなんじゃ。

安気に暮らせるまちを、消防車が入れるよう道路を整備したりせにゃならんとなると、単純に減らすわけにもいかんしのん…。

まちづくりにみんなの夢を反映させるって、大変なんだ。

都市マスは、まちづくりの指針となるもんだし、「夢」をかなえる筋道を示すも

んなんじゃが、どうしても、目の前の財源や現実を見にゃならんのだ。ほいだで、夢の実現は大変なんじゃ。

ほんでも、国道23号や247号のバイパスができりゃ蒲郡も変わるで、みんなどうまい土地の使い方を考えていかんと、もつたないだらあ。

まちな中も山間部でも、住みやすくしていく方法を一緒に考えまい。

計画開発課 ☎66・1142



学芸員 小林龍二

「お客さんはアドバイザー」

学生時代、「館内に出て利用者の目で展示を体験する事は学芸員にとって大事なことで」と先生に教えられたため、私は時間があれば館内に出るようになっています。

実のところ、展示を新しく

したときなどには、休日、お客さんのふりをして水族館に行き、展示を見るお客さんの反応を調べたりします。

最近では、恥ずかしながら私の顔写真が、広報に掲載されてからは、こうしたことができなくなりまして。しかし、その反面、館内を歩いている

と声をかけられることが多くなり、とてもうれしいことがたくさんあります。

先日、三谷町から来てくださった子供さんとお母さんから館内で声を掛けられたり、また、西田川でよく遊ぶという市民の方から情報提供があったりとお客さんから親しみを込めて接していただけます。飼育の相談なども多くなりました。そのため、ついつい話が長くなってしまい、展示裏で行っていた作業を忘

れてしまうこともたびたびです。「はっ」と嫌な予感に襲われ、急いで展示裏へ戻ると、予感的中。水槽から水があふれていたり、反対に水を抜きすぎたりして後始末が大変です。でも、そんなハプニングも、お客さんの笑顔を見れば、吹っ飛んでしまいます。

お客さんとの会話は、地域の生き物の情報や展示に関しての思いがけないヒントが得られるだけでなく、自分も成長することができるのです。